

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500670		
法人名	社会福祉法人 熊本菊寿会		
事業所名	グループホーム大和		
所在地	熊本市北区植木町木留336-2		
自己評価作成日	令和 5年 2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigosaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム大和は、熊本市北区の北部に位置する植木町にあります。自然豊かな環境に包まれています。私達の事業所では、利用者様の一人ひとりが、やりたい事等を見守り、支援しながら、共に笑顔のある暮らしが送れるように日々努めています。また地域の方々との関わりを大切に、ご利用者様が地域と共に暮らしやすい環境に努めています。今年度は新型コロナウイルスの影響があり、地域の行事等も中止が多く事業所の行事にも交流することが出来ておりません。しかし、ソーシャルディスタンスを保ちながら地域の自治会長、民生委員さんはもちろんのこと、近隣の方々から声掛けをいつも頂いています。また、採れたての野菜やお花の物々交換を行ったりしています。また、認知症の行動・心理症状(BPSD)の予防・軽減を目的とした国の認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究事業に参加して当事業所で実践を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時からの取り組みである長年の生活の中で看取りもあるとして家族の思いに応えるホームでは入居者の入替えが進む中で、職員のスキルアップや業務中心からの脱却等が入居者と職員とが共にあるホームとして形成され、出来る力の発揮や残存能力を引き出したケアは日常生活にメリハリや笑顔ある生活へとつなげている。また、“個”のペースに合わせた生活(マンツーマンでの歩行訓練等)等時間がかかってその人に向き合う等志向を高くして臨んでいる。庭先での運営推進会議や喫茶コーナー等創意工夫が随所に見られるとともに、恵方巻きを入居者自身で巻いたり、“その人らしい生活”を支援している。認知症ケアモデルの普及促進事業への参加等が、今後更に地域症ケア推進への寄与として生かされるであろうと期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して毎朝朝礼時に唱和し、実践につなげている。自分たちで考えた介護の理念は、6項目ありケアの拠り所となっている。自分たちのケアがこれでいいのか不安になった時にいつでも振り返ることが出来るように目にとまる場所に掲示している。	介護理念6項目の唱和による意識強化や毎年理念を見直す中で、同じ理念を継続することを総意で決めている。入居者の入替えという過度期にあり、一日一日を大切にし、安心・安楽に過ごせる様にとする項目は、コロナ禍の中での感染予防対策に繋げ、インスタにアップし日々の生活の開示は家族の安心感として反映させる等理念を踏まえケアに具体的反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出などの制限を余儀なくされたが、感染予防を配慮して可能な限り交流が持てるよう努めた。今後もご利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流していく。	日曜日の清掃活動への参加、保育園児との相互交流(サツマイモの植え付けから芋掘りまで)、地元住人からの野菜や雑巾の差し入れ等地域との関係性はコロナ禍といえども息づいてきている。老人会長もどんな様子だろうか、何かあれば協力したいとホームに足を運ばれる等地域に開かれたホームが形成されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、地域からの相談事があった時は相談支援を行い、必要に応じて関係機関へのつなぎを行っている。また地域の清掃活動に参加貢献している。そして、認知症ケアの専門職を活かした認知症実践における講義を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年も新型コロナウイルスの流行りに伴い、面会制限を行っているため集合の運営推進会議は1回しか出来なかった。しかし、2ヶ月に1回の定期的な活動報告を書面にて送付または持参し、ご意見等を頂いている。	コロナ禍の中で、書面開催時には報告書を地域包括支援センターには送付するとともに近隣には直接持ち届けながら委員からの意見を収集しており、コロナの蔓延期には職員への不安等心配したの声が上がっている。また、ホームの庭先で開催したケースもあり、事故やヒヤリハット事例等の報告による意見交換の他、議題を提示した話し合い等工夫しながら開催している。地域の委員から草取り等協力したいとの温かい意見等も聞かれる等地域に根差すホームとして運営推進会議が有効に活用されており、この会議では地域住民も見学されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ささえりあ植木様、市北区福祉課及び保護課様とは定期的に連絡を取り、現況報告はできている。また認知症介護指導者の在籍により、市からの相談事に対応、協力をしている。	市や地域包括支援センターへは現状報告に出向いたり、運営推進会議時の状況開示等とともに、認知症の指導者研修先として実習生の受入れ等協力関係を築いている。保護課や地域包括支援センターからの入居相談等により入居に至ったケースもある。また、認知症サポーター養成講座の講師として活動している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を2ヶ月に1回程度開催し、禁止対象となる具体的な行為について振り返りを行い話し合いを行っている。	身体拘束等適正化委員会の開催や、オンライン研修で振り返り、スピーチロックとしてつい出してしまう言葉使いについては職員同士が注意喚起するとともに、自分の親としての言葉使いを行う事等を共有するとともに、身体拘束廃止指針を掲示し、意識付けとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加をオンラインで受講し、最新の情報を踏まえて、内部研修を行い、スタッフ間の周知徹底に努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルスの流行により、外部研修への参加は出来ていないが、内部研修を行いスタッフ間の周知徹底につとめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解を得られている。いつでも気になる事があったら気兼ねなく声をかけて頂けるよう、日頃から利用者様の現況報告を通してコミュニケーションを図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防対策のため、今年度も面会制限をおこなっているため、オンライン面会や公式ラインを導入し、コミュニケーションが取れる環境づくりに努めた。	家族の訪問時には状況を説明し、緊急を要する場合には電話にて連絡する体制として、良し悪しに関わらず家族に報告している。コロナ禍にはオンライン面会等としており、家族からもラインを通じての相談もあり、良好な関係が築かれている。また、運営推進会議も問題提起の場としている。	家族との交流の再開や家族の思いとして一緒に外食に出たい等が実現できるよう、コロナ感染症に目処が付けば検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できる限りその都度意見交換し、必要な時はそれぞれのチームで話し合い、その意見の解決に努めている。また、年に2回以上個人面談を行い、普段からも何かあったら意見や提案が言いやすい環境づくりに努めている。	職員はケアの中で率直な意見を出しやすい環境が整備されており、業務中心から入居者と向き合う事で落ち着いた生活へと繋げている。又、全職員で話し合い機会を作り、問題が起これば緊急ミーティングを開催し、厚労省の認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究に参加することで全員での話し合う機会が多くなり、委員会活動等志向を高めて臨むホームである。法人全体の運営会議へ参加したり、職員向けアンケート等を行い、職員の思いを引き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から職員個々へ声掛けを行い、各自の思いを傾聴し理解できるよう努め、勤務環境の充実に繋がるよう図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受けて頂き、利用者様一人ひとりの支援について職員個々のケア状況を確認しながら適宜指導している。また中核職員については一緒にzoom研修に参加して頂きその事について指導できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業所との交流を細目に行い情報収集を行ったり、サービスの質向上に繋がるようスタッフに伝達、内部研修を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とのコミュニケーションを細目に図り関係づくりに努め、困っている事・不安な事がないか定期的に傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の現況をご家族に連絡しケアプランをもとに支援内容について確認しながら検討を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を聞き、ケアプランに反映して支援している。また、インフォーマルサービスとしてパンの訪問販売を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの状況を把握し、一緒にできる食材の野菜の皮剥き・調理の味見、洗濯干し・茶碗拭き等他を一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は、コロナの影響で一緒に外出される機会はないが、窓越し面会やオンライン面会、電話をとおして、利用者様が安心して暮らせるよう一緒に支援して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記と同様に今年度はコロナの影響で交流行事が出来ていないが、地域の方々からの声掛けや訪問は継続して出来ている。	家族中心の面会や家族との受診等はあるもののコロナ禍により馴染みの場所へ出かける事は出来ない状況にあるが、園児との交流は継続している。七夕に思いを記したり、入居者自身で巻く恵方巻、干し柿作り等慣習や季節に応じた行事等出来ることで支援している。	家族からは家で正月を迎えさせたい等の申し出もあったようであり、コロナ感染症のリスクが低い時期や気候等を鑑みながら、自宅で日帰りでも出来ることを願いたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握し、コミュニケーションが取れやすい環境整備に努め支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切に事業所行事への案内や運営推進会にも参加をして頂いている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援を通して一人ひとりの思いや意向の確認を行い、困難な場合はご家族に確認しながら支援計画を検討している。	BPSDの中で入居者個々の思いを引き出し、日々の会話を記録している。繰り返しの言葉にも傾聴し、否定の無いケアに徹底している。会話が難しい方や意思表示が無い場合には、表情や仕草等により把握するとともに、家族に意向を聞き取りし日々のケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の記録やご家族からの聞き取りにより情報共有が出来ている。さらに支援記録を日々ケアに活かし計画の見直しを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に経過記録を残し、しっかり現況把握を図っている。職員で共有し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及び必要に応じて課題とケアの在り方について関係者と話し合いを行い、介護計画を作成している。	入居に際して日常生活の支援方法や体調・心身状況の観察について話し合い、本人及び家族の思いを聞き取りし、まずはホーム生活に慣れてもらうためのプランを策定している。ケアミーティングにより全員分を図し合い、日常の中で聞き取りした言葉などを意向として捉え、3ヶ月毎に評価し、変更する事案は朱書きにて追加する等現状に即したしたプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をとおして職員間で情報共有を図り、気づきを出来るだけ記録できるよう努め、検討見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族より外出・外泊の希望があったが、新型コロナウイルス感染防止の法的取決めもありあまり実現できなかった。しかし流行の具合によっては自宅へ帰ったり、面会に行かれたりした。また、看取り期の対応として、感染予防対策の協力をご家族にも得て、直接面会を時間を決めて実施することができた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナウイルスの流行により地域との直接的な関わりが余りできていないが、玄関先での訪問やこちらからも出向き近況報告を行い、関係性の継続を図った。また流行の具合によっては、演芸ボランティア訪問の計画を立てた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望及び要望を確認して、かかりつけ医と事業所の関係性を築けている。	殆どの入居者が協力医による訪問診療としているが、協力医の紹介による専門医への受診及び既往歴によっては(家族の希望)これまでのかかりつけ医として家族が受診を対応としている。協力医とは24時間の対応である事やいつでも連絡が取れる体制で有り、熱発などには直ぐに指示をもらえる状況にあるとともに、2名の看護職員を配置していることも異常の早期発見等に生かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働により、利用者個々の現状把握に努めた支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院受診時の相互の情報交換は適切に行っている。日頃から電話連絡とでの交流を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族等にそのことについての説明を行い、また重度化した際に終末期のケアの事前確認を書面にて行っている。看取り期には職員・かかりつけ医及びご家族と一緒に終末期の在り方について話し合いを行いながら支援している。	入居時に“看取りケア・終末期における指針”をもとに家族に説明し、ホームの方針を伝えると共に事前指定書を取り交わしている。入居者の状態から必要な時点で医師を交えた話し合いにより方向性を決めている。職員は長年の生活の中で看取りもあるとして、家族の希望があれば看取りケアを支援しており、今年度も担当医と連携し、4名の入居者の最終章に寄り添い、感染症対策の徹底により家族との最期の時を過されている。	ターミナルケアについて“自分だったらどうのように看取って欲しいのか”等自分に置き換えたり、看護職員からの指導を受けている。また、オンラインでの研修に参加している。“最期までホームで”との家族の希望も多く、これまでの終末期ケアの実践が今後のケアに生かされるであろうと大いに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ミーティングにて応急手当を学び確認し合い、急変や事故発生時の迅速な報告・連絡を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難経路の確認及び環境整備に努めている。外部業者による消防機器点検も行っている。また、備品及び食材の備蓄整備も整えている。地域とは運営推進会を活用して連携について議題にかけているが協働訓練には至っていない。	火災を想定した総合訓練を行い、訓練では入居者も避難を体験し、職員が状況を確認したり、参加した防災業者から、まず火を出さないことや初期消火の重要性等について指導を受けている。備蓄はリスト化し、法人での管理としているが、コロナ感染症対応の備蓄はホームで備えている。	現在、自然災害マニュアルが作成中である。管理者は有事の際の地域との連携が出来ていないとして課題の一つとして挙げており、運営推進会議の中に組み入れることや、防災訓練に呼びかけてみる事等検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待についての勉強会を行い不適切なケアについての職員全員が振り返りを行い支援を行っている。職員が互いに不適切なケアが言い合える環境づくりに努めている。	勉強会(高齢者虐待防止等)の中で、報道等を事例として自己の振り返りや今後何をするの考えかを自身で考え、入居者が喜ばれた具体例等職員の気づきを評価している。トイレ介助等の付添い等入居者の手順やスピードに寄り添い、急がせないケアを共有している。職員の否定の無い言葉使いや入居者目線での声掛け等に入居者を中心に捉えたケアであることが表われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つのケアを行う際は必ず言葉かけを行いご本人の意向を確認して支援できている。認知症状にて本人の確認が難しい方は、家族に支援の意向について相談し意思表示がない時は表情や体調を観てケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の気持ちや意向に合わせた支援ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服やヘアスタイル等、本人・家族に意向を聞きながら支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める時は入居者と相談しながら決めている。個人のその日の体調に合わせて野菜の皮むきや味見、食器拭き等して頂いている。	メニュー作りから入居者と共に検討し、入居者と一緒に料理を行う事で、スタートが遅くなったり、出来上がりが早い時もあるとし、時間に左右されず調理する過程を重要視している。団子汁は味噌、醤油ベースと選択する機会を作り、3月3日の雛祭りのお寿司は稲荷を雛人形に見立てる等子趣向を凝らしている。家族にも料理を開示し、喫茶コーナーとして牛乳やコーヒー、お茶等を選んでもらう等の工夫もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の摂取状況観察を行い、摂取状況に合わせた食事・飲み物及びご本人の好まれる物の提供ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状況に合わせて毎食後口腔ケア出来ている。また、希望される方は週に1回歯科往診があり、職員に口腔ケア助言も頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを知り、さりげなく声掛けを行い排泄支援ができています。オムツの方も座位が可能な方は、本人の気持ちを確認しトイレで排泄支援を行っている。	入居者個々に必要な排泄用品を見極めながら、オムツ利用でも日中は出来ることあるとして入居者の状況を見ながらトイレへ誘導している。トイレは自立した方もあるが、大半は声かけや誘導により対応しており、排泄面の変化や気になる点があれば排泄委員会で検討し、家族に相談しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を摂ってもらったり十分な水分補給を促している。また日々の集団体操に参加を促し、個別にリハビリを行い身体の運動を実施している。排便困難な方は腹部マッサージを行い出来るだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に応じたタイミングに合わせてお一人ずつ入浴して頂いている。一人の職員が最後まで関わるので、ゆっくりと入浴を楽しむことが出来ている。身体状況に合わせて二人介助支援している。	入居者の希望する時間等一日を通して入浴を支援し、入浴拒否には別日にする等無理には誘わないとしている。冬場は事前に浴室を温めヒートショック等に気を配り、同姓介助の意向には随時職員を変更して支援している。また、入浴中にボディチェックをさりげなく行い、皮膚疾患や打ち身等を早期に発見し、重症化を防ぐよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情やしぐさ等で疲れが見える時は、部屋で休まれないか声掛けしながら安心して過ごして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬の状況を把握し、薬剤師の方と情報交換を行い助言を頂き職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人それぞれの楽しみや意向に応じて、計算や塗り絵、読書など、また七夕セリー作りやおやつ作りなど嗜好品料理と一緒に楽しみ、洗濯干し・たたみ等日常生活の役割等感じて頂ける暮らしができるよう支援できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って近隣を散歩したり、個別に車でドライブをしている。	感染症の状況を見ながら、入居者も一緒におやつ購入や少人数でのドライブ等に出かけている。天気の良い日には玄関前に出て日光浴で一時を過ごし、地元にある保育園児との芋掘り等世代を超えた交流に努めている。	家族からは“外に連れて行きたい・外食をしたい”等の声も上がっており、家族の訪問時に家族との散歩等家族の協力を得ながら外に出る機会を作られる事が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望に応じて訪問販売(パン)で購入支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の意向に応じて電話をかける支援を行えている。季節のハガキや手紙など出されないか声掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のくつろげる椅子やソファ、季節の花や飾り物等環境を整えて、心地よく過ごして頂けるよう努めている。	毎朝掃除と換気を行い、共有空間(リビング・廊下・交流室等)は入居者もモップがけをして手伝われている。廊下に置かれた家具類は避難経路の確保という点から一方方向に配置し、手すり代わりに活用されている。職員が持ち寄った花は至る所に飾られ、季節感ある空間となっている。壁面を活用した掲示物(写真等)は、入居者の日常を映し出し、居心地良い住空間に一役を担っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で会話がしやすいよう、その場面に応じて座席の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく入居時には使い慣れたものを持ってきていただくようお願いしている。居心地の良い生活空間になるよう工夫している。	入居に当り、これまでの使いなれた物の必要性を説明している。ガラスのコップも重さや使い勝手の観点から心配する所もあるが、入居者自身が大切にしている品であり、馴染みある物として大事にしている。居室によっては、表札が無い所もあるが、本人の希望に沿い表示はしていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋の認識がしやすいように「表札」をつけたリトイレには暖簾をつけ過ぎしやすいよう努めている。		